

『学校力向上に関する総合実践事業』コーナー その10

今号は『外部アドバイザーによる指導』について紹介します。

本校では、9月29日（月）に東京大学大学院教授の市川伸一氏を招いて「道外アドバイザー派遣研修会」を開催しました。管内からは36名の教育関係者も来校しました。

市川氏は、本校で研究している算数科「教えて考えさせる授業」の提唱者。本校では、7月の公開研究会において6年生（福山教諭）が「教えて考えさせる授業」で算数の授業を特設公開しましたが、今回、再度、提唱者である市川氏が観る前で、4時間目に授業公開しました。単元は「角柱と円柱の体積」。前の時間に学習した四角柱の体積の求め方（底面積×高さ）を基に、

○ 三角柱の体積を求めよう！

をめあてに、学習を進めました。以下、学習の様子は下記の通りでした。（※以下の授業の様子が「教えて考えさせる授業」の南小モデルの「ベース」です！！）

■ **【教える】（教師の説明）** めあて確認後、重要ポイントは「教師の分かりやすい説明」で

確認が必要な場面では「子ども達とのやりとり（即答できる質問等で）」を経て、

● 三角柱の体積も、底面積×高さで求めることができる。

というまとめを導き出しました。

■ **【考えさせる】（理解確認）** 理解した三角柱の求め方を使って、実際に2問の「類似問題」に取り組みました。1人で解決を図った後は「ペア」で互いに求め方を説明。スムーズな「教え合い」の後は、全体で答えを確認しました。

■ **【考えさせる】（理解深化）** 三角柱の求め方を十分に理解したところで、発展的な問題に挑戦。（高さの異なる2つの三角柱が合体した立体の体積を求める）この場面では、初めから「ペア」を組み、互いの考え方を伝え合いながら「協同的」に解決を図りました。

■ **【考えさせる】（自己評価）** 授業を振り返り「分かったこと」をノートに書きました。

その後、他校の先生方と協議を行い、教育局の竹内主査から助言をいただきました。

☆全体を通して説明や指示が分かりやすく、流れがスムーズだった。

☆ペアで説明し合う活動に子どもたちが慣れていて、安心できる関係が築けている。

☆積極的に交流し1人1つ以上の方法で解決できている。子どもたちが育っている。

など、本校の「教えて考えさせる授業」に対する成果が多く出されました。（もちろん課題も出されました。貴重なご意見として受け止めたいと考えています）

5時間目は、市川氏が直々に5年生を相手に算数科の「教えて考えさせる授業」（提案授業）をしてくださいました。子どもがつまずきやすいポイントで、分かりやすい例題を出し、理解の様子を確認しながら「もともになる数を基にした口倍の求め方」の学習を進めました

☆ 確かな個別指導 ☆ 挙手させることによる確認 ☆ 効果的なワークシート

など「教えて考えさせる授業」の改善に役立つ手立てを実際に目にすることができました。

その後の講演では、これまでの授業実践例の紹介とともに、基礎基本を確実に身に付けさせるには、子ども達に〈深い理解〉をさせることが重要であること。それを確認するための手立てとして、子どもが

・自分の言葉で説明できる

・質問に答えられる

・別な問題に応用できる

の3点を挙げていました。授業づくりに役立つ具体的な工夫について学ぶことができ、とても有意義な講演でした。

算数科における「教えて考えさせる授業」の改善・実践は、本校の校内研究を通して、さらに歩みを進めていきます。

子どもたちに〈より確かな学力〉を身に付けさせるためにも、これぞ『南小モデル』という指導法を確立させようとする気運が高まっています。

